

2025年12月15日発行

エコ・リサ通信

特定非営利活動法人

埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

第 130 号

エコ・リサ研修見学会報告

11月13日、

紅葉の飛鳥山に
日本の産業の歴史
を学び活動に活か
すため 3 つの博物
館を見学してきまし
た。



紙の博物館

加藤 愛里

私は北区王子にある「紙の博物館」にNP
の法人埼玉エコ・リサイクル連絡会のみな
さんと訪ねました。紙の歴史や製造過程、そ
して近年重要性が増している紙について、学
びました。展示を通して、その背景に多く技
術と環境問題があることを知り、紙という素
材をより深く理解する機会となりました。
特に印象に残ったのは、明治初期の紙の原料
は木綿などのホロコ破布だったという展示
でした。入口すぐに置いてありました。他の
展示にも古い着物や布類を細かく裂き、叩
いて繊維に戻し、そこから和紙を作っていた
という説明は非常に印象的でした。現在のよう
に木材パルプが主流となる前、紙は布を再利
用して生まれていたことを知り、紙づくりが
もともと「リユース」を前提にした循環型の
文化だったことに驚かされました。
また、和紙の製造方法についての紹介も興味

深く、楮・三桠・雁皮などの植物を使い、
叩解し、漉いて紙を作る工程が模型や実物を
通して説明されており、シンプルでありなが
ら高度な技術が必要であることがよく理解で
きました。特に、和紙は繊維が長く丈夫で、
長期保存に適しているという点から、日本文
化の発展に大きく貢献してきたことが実感で
きました。
見学を通して、紙は単なる消耗品ではなく、
歴史的にも環境的にも重要な意味を持つ素材
であることを学びました。今後は紙を使用す
る際に、無駄のない使い方や再利用を意識し、
資源を大切にすることが大切だと思っています。



一般社団法人 繊維リサイクル協会

<http://tera-jpn.or.jp/index.html>

北区飛鳥山博物館見学記

石川 恵輪

飛鳥山博物館は、東京都北区が持つ歴史・文化・自然環境を体系的に保持し、それらを住民や来館者が理解できる形で展示・発信するために設立された区立の博物館です。

北区は江戸時代の行楽地・飛鳥山、王子稻荷に代表される信仰文化、近代における製紙業や工業の発展など、多様な歴史を持つ地域です。

飛鳥山博物館では常設展示室で「大地のおいたち」から「縄文人・弥生人の暮らし」と時代を追って様々な展示がなされています。

縄文時代中期に形成された「中里貝塚」は幅 100m長さ 500m から1kmに及ぶ範囲に広がり貝層は厚いところで 4.5m にもなります。その大きさだけではなく貝の種類がカキとハマグリにほぼ限定されて、魚骨や獣骨、土器や石器といった道具類がほとんど出土しません。周囲には住居がなく一般的な貝塚とは異なります。そのようなことから水産加工所があったということです。

奈良時代、武蔵国は 21 の郡がおかれておりましたが各郡には役所として郡衙が置かれ豊島郡衙は今の北区西ヶ原にありました。写真は「豊島郡衙正倉」で米を納めた倉を復元しています。



江戸時代の北区の様子、特に飛鳥山公園の賑わいを映像でも紹介しています。徳川吉宗公が万人のために 1000 本の桜を植え飛鳥山公園をつくり、上野公園とは違い無礼講で楽しめる花見や富士のすばらしい眺望をはじめ四季折々に人々が集いました。周辺には高級料理屋や茶屋が軒を連ね賑わいました。

また北区は近代産業発祥の地であります。幕府により建造されたという反射炉の敷地に鹿島紡績所が創業されたことに始まり、明治初期に石神井川下流部に興った工業を契機として王子周辺に繊維・製紙・薬品などの諸工場が集積し我が国の近代産業発祥の礎を築きました。

縄文時代から水産加工所ができ、豊島郡衙があり、飛鳥山公園が賑わい、近代産業発祥の地であるこの北区のすばらしい歴史を学ぶことができました。

司法書士竹内啓修事務所

お問合せ ☎ 048-963-6055 不動産・商業登記全般



渋沢栄一が埼玉県深谷市血洗島の出身という事は埼玉県民なら誰でも知っていること。そして一万円札のお顔である事は日本中の誰でも知っている事。

しかし、なぜ一万円札のお顔なのでしょう？

北区飛鳥山公園内の旧渋沢邸跡地建つ 資料館(本館)と晩香廬、青淵文庫を見学しました。

渋沢栄一がこの飛鳥山に邸宅を構えた理由は、工場の設立に深くかかわった「抄紙会社」(後の王子製紙)の様子を見守り続けたいという思いから。また、立地として飛鳥山の自然豊かで閑静な環境で景勝地である事。家族と過ごすに理想的な地として適していると考えたからのようです。

最初は別邸(愛依村荘)として国内外の要人を招いて接待したり重要な会議をしたりと、民間外交や事業推進の拠点としても活用されましたが、晩年の30年間をこの地で過ごしました。1945年4月の空襲により建物の多くを焼失しましたが、晩香廬、青淵文庫などが現存しています。

渋沢資料館

埼玉県の誇る実業家であり政治家でもありました。福祉事業や慈善活動、教育支援、労働問題への取り組み等経歴は数えきれず、写真にも収めきれませんでした。



人々との交流



多方面にわたる事業や活動、教育支援等

一万円札のお顔である事に納得！

幼少より漢籍の手ほどきを受け、『論語』を始め四書五経や『日本外史』をまた剣術も学んだようです。

渋沢家は米、麦、野菜の生産を手がける農家でしたが養蚕や藍の生産販売も兼営しており、栄一も父と共に信州や上州まで製品の藍玉を売り歩くほか、原料の藍葉の仕入れ調達にも携わった

ようです。14 歳の頃からは単身で藍葉の仕入れに出かけるようになり、こうした経験がヨーロッパ視察時に、近代的な経済システム、諸制度を理解吸収する素地となり、また後の現実的な合理主義思想の形成にも繋がったとのこと。

晩香廬(国指定重要文化財)



栄一の 77 歳(喜寿)を祝って清水組より贈られた洋風茶室です。渋沢邸を訪れた賓客のおもてなしに使われた建物で、調度品は当時の新進気鋭の美術工芸家によって作られたそうです。



青淵文庫(国指定重要文化財)

栄一の 80 歳(傘寿)と子爵に昇格した祝いに竜門社より贈呈された建物で、蔵書を収蔵するために設計された建物であるため、堅牢な造りとなっているそうですが、家紋の柏の葉とドングリの実をあしらったタイルや寿の飾り文字をデザインしたステンドグラスは見事でした。



思っていたよりずーっと凄い人でした！

税理士法人 T&M ソリューション

毎月第2水曜日は「税の無料相談日」 お気軽にお問い合わせください！

お問合せ ☎ 03-5829-9664 E-mail info@tms.or.jp

みんなで交流、元気100倍♡

日時：2月19日(木)14時から16時30分(受付13時45分～)

会場：生涯学習総合センター 7F・講座室2

<参加費>無料 <定員>会場参加25名

**エコ・リサ交流集会では、長年にわたり
市民と事業者と行政が環境問題を話し合い、
解決に向けての取り組みを共有してきました。**

今回は、実参加のみの開催です。お久しぶりの顔合わせで、情報交換しましょう。

温暖化の影響！

宮古島のサンゴや海藻が失われています。

ウミガメは、海藻を食べるために海岸近くにやってきます。何度も呼吸するために海面に顔を出しては、ちよろちよろ生えている海藻を食べるのに必死です。飢えて死んでなければよいがと、とても心配です。

交流集会では、効果的な取り組みの情報交換ができればと、期待しています。

おおぜいの皆様のご参加をお待ちしています。



読売旅行

読売旅行「あなたの街から」いい旅 いつも これからも

☎03-6859-4343 FAX : 03-6859-4433

編集後記

電車の中からいつも眺めていただけた飛鳥山。博物館はいずれも展示が充実していてびっくり。今回参加できなかった方も、ぜひ一度訪れてみてください。

大前万寿美